

天神さまと想ふ

〜 中上町会と深志神社 〜
中上町元総代 与曾井 豊

深志神社氏子町会数は現在四十八町会である、そのうち中上は中上町・中南西と四町会となっている。平成六年、私が中上町の氏子総代に就任した頃は、中上四町会からの寄附やその連絡配布物はまず中上町で（中上全町）として一括して受けて、そのあと各町会へとわたっていた。節分のダルマ等の授与品は、私の家の玄関に山積みになり、リヤカーで配って行ったものである。その後、中上は広過ぎるということでも平成十年頃からは各四町会に直接届けられることになって、今に及んでいる。

中上は、深志神社の歴史と深く関わっている。松本の町は江戸時代になり城下町としての発展に伴って親町・枝町の十六町会が形成され、現在も十六台の舞台が活躍している。親町・枝町の外は庄内村であり、清水と中上が古くからの氏子地域であった。天神祭りには拜殿の正面に清水（三灯）、両脇に中上（二灯）の大きな提灯が掲げられる（写真①）。そして、正面参道神楽殿前には「庄内 清水・中上」から奉納された二本の大きな幟が建てられる（写真②）。これは昭和二十七年の菅公御正忌、〇五〇年祭に奉納され、平成十九年に新調

された。

また天神祭の時には祭礼幟を中上四町会の総代宅に掲げる（写真③④）。

中上に現存する古文書は慶安四年（一六五二）の検地帳以来安政六年（一八五九）まで二百余年に亘って空白である。しかしこの間、戸数は三倍前後に増加しているが、庄内村の人の日々は百年一日の如き状態であったと考えられる。

時代は明治となり明治新政府の夜明けが始まり、庄内村中上の主な行事は天神祭等自然災害に対する神々への祈りであり、これ等は年番により今の西口の阿彌陀院を主会場に行なわれた。明治以降の中上に関わる事柄を残されている記録で見ると、明治二年（一八六八）天神灯籠が式両式廿分式五分にて新調された。明治八年（一八七五）七月十九日、天神祭の直会が阿彌陀院の広場にて行われ、支出は豆府三丁六錢六厘、掲代四錢・うり十本壹錢五厘、酒代貳拾四錢・溜四錢・宮本代拾壹錢するめ四拾八錢であった。明治三十五年六月十五日には篠ノ井線が松本まで開通して、中上の地域を分断したために年を追うごとに駅東西の格差が増大して今日に至っている。大正三年区制実施について伍長会議にて長沢は独立区とし、中上は東

店・西店本村とした。古地図には今の分銅町・新伊勢町・神明町・国分町・西

五町は全面田畑と記録されており、多くは荒蕪地であり、国は固定資産税の収入を得るため売却された。私の所も長沢川に沿った部の土地が大正時代に購入された。現在、駅東の二等地も中上の住民により購入されて現在に至っている。

以下、関連事項を列挙する。
大正十年七月廿七日、深志神社神楽殿修繕費の中上区負担額金四十式円九拾八錢也、年番に於いて般より徴集す。
大正十年七月八日、深志神社事務所屋上制限令により不燃物質にて葺き替えせしむ付、該費用及すだれ新調に付、費用を区費として徴収す。
大正十二年三月三日、伍長会にて菅公廿五年祭執行世話人を選挙す。
大正十二年五月二日、菅公廿五年御正忌祭に付、東西店通り装備費用に金叁拾円補助す。
その間、大正三年に庄内村中上は四町会となり、爾来今日に至っている。思えば長い、中上と深志神社の歴史との縁が深い道なのである。



③



与曾井元総代宅に掲げられた祭礼幟 ④



②



① 両脇に中上、正面に清水東の提灯

新年を迎えるにあたり
深志の大神様の御神威を仰ぎ
皆様の家運隆昌と家内安全と
お祈り申し上げます

新しい御神札をお迎えし、 神様に見守られて心安らぐ日々の暮らしを

- ◆ 神宮大麻 (お伊勢様・年神様)
天照大神様をお祭りされる伊勢の皇大神宮の御神札で日本の総守り神様
- ◆ 深志神社大麻
深志神社の御神札で
松本南深志48ヶ町の守り神様
- ◆ 祭典のご案内
大晦日 午後11時30分より除夜祭
正月 午前0時より歳旦祭
- ◆ 二年参り、初詣のご案内
大晦日から元旦にかけてお参りする「二年参り」。一年の感謝と新たな年を迎えるお気持ちで、午前0時に鳴りわたる大太鼓の響きとともに迎えてください。
- ◆ 新年祈願祭のご案内
元旦より新年諸祈願祭を奉仕いたします。
（団体の祈願・社業繁栄・商売繁昌・社内安全・交通安全等）（家庭・個人の祈願）
内安全・厄除祈願・合格祈願等
特に受験合格祈願は御祭神の天神様、菅原道真公の御神威があらたかです。
なお、団体での祈願は予約いただいておりますので社務所までお問い合わせください。



皇大神宮と深志神社の御神札(家内安全)



社頭の参拝様子



授与所の様子



団体・会社のご祈禱



絵馬を掛ける

- ◆ 新年授与品のご案内
御神札(伊勢神宮・深志神社・家内安全他)、御守(肌守・交通安全守・合格守・勝守・金運招福守他)、新春縁起物(熊手・破魔矢・福俵・ダルマ他)やおみくじ(神教みくじ・三角みくじ・花咲みくじ・恋みくじ・男・女みくじ)等を授与致します。なお縁起物は大晦日午後10時より授与します。
また大晦日午後11時より境内にて篝火を焚き、古御神札等をお焚きあげします。年内に受けられた御守や御神札、縁起物等を感謝の気持ちで込めてお納めください。
- ◆ 節分のご案内
2月3日恒例の節分祭を斎行します。
年男・年女での奉仕や、豆まきでの厄払いを希望の方は各町会氏子総代にお問い合わせください。社務所へ1月30日までにお申し込みください。
人気ゲーム機や液晶テレビなどの豪華賞品、福銭、福豆等の福を受けに来る方の参加はご自由です。子供専用コーナーもありますのでご家族皆様安心してお参りいただけます。
- ◆ 梅風閣のご案内
当社併設の梅風閣にて忘年会、新年会を承っております。会社の皆様や御家族とは非ご利用ください。
お問い合わせは0120-0122829
フリーダイヤル 0120-0122829
ホームページ http://baitukaku.jp/

【平成24年厄年表(数え年)】

	男性		女性	
	25歳の厄	42歳の厄	19歳の厄	33歳の厄
前厄	平成元年生	昭和47年生	平成7年生	昭和56年生
本厄	昭和63年生	昭和46年生	平成6年生	昭和55年生
後厄	昭和62年生	昭和45年生	平成5年生	昭和54年生

【還暦】昭和27年生(男女とも)

ふかし 深志神社社報 第13号
発行日 平成23年11月25日
発行所 深志神社社務所
〒390-0815
松本市深志3丁目7番43号
電話 0263-32-1214
FAX 0263-32-5908
http://www.fukashi-tenjin.or.jp
印刷 (株)日本広告 (4,000部)

ふかし

深志神社社報 第13号
平成23年冬号

深志神社は信州松本城下
南深志の地四十八ヶ町
氏子の守り神さまです

この紅梅は平成21年、鎌田天満宮合祀
百年記念に鎌田町会から献木されました。





中町三丁目舞台

また、中町三丁目舞台で楽しいのは、二階の手摺り部分に施された子供たちの遊び姿を描いた彫刻です。髷を結った子供も見えますか



中町三丁目舞台人形

9月26日、深志神社御神前で魂抜き神事を行い、「中町三丁目舞台」が修復に入りました。予定されている舞台修復は、この後1台を残すだけ。平成の舞台修復事業もいよいよ最終盤に掛かりました。

深志舞台は16台もありますので、地元の方でもその特徴を捉えるのは難しいのですが、この中町三丁目舞台は、なかなかユニークで、個性的な舞台です。

前方を短く切ったやや小さな唐破風屋根、正面支

この指摘がありました。まず、大工さんからはこの舞台が元々は「二階屋根が上下する「せり上がり式」になっていたらしいこと。また、「二階の床下に発条のような仕掛けが残り、「からくり」の跡らしい。中町三丁目舞台の人形は、「神主さん」で、かつては被いのしぐさをしたとは聞いていましたが、構造から仕組みれたからくり人形であることが確認されました。

漆塗りの業者さんからは、あちこちに塗り塗が施されており、手の込んだ仕事が見える。職人さんからも、牡丹をテーマとした装飾がなされているのではないかと、指摘がありました。あらためてこの三丁目舞台は、町の人や職人さんたちの思い入れや気合いの詰まった舞台なんだなと感じさせました。



手摺り彫刻「祭礼風景」

さらに今回、解体に際して修復の各業者さんより、この舞台を特徴づける幾つ

松本深志舞台保存会だより「10」

■中町三丁目舞台の修復始まる

輪部の菊花彫刻、重心の高さを感じさせる腰高なスタイル。こうした点が中町三丁目舞台の特徴で、それが他の舞台に比べて軽快で洒脱な印象を与えます。この度の解体作業の中で、この舞台の完成が明治29年だったことが確認されましたが、三丁目舞台は明治という新しい時代の息吹を感じさせる斬新な舞台だと思えます。

また、中町三丁目舞台で楽しいのは、二階の手摺り部分に施された子供たちの遊び姿を描いた彫刻です。髷を結った子供も見えますか

五色のぼり「お手本」
市内神社 14日に八坂さま



坂木

八坂さまの祭りに向けて五色のぼりを準備する深志神社のみこ

松本市の深志神社や、岡宮神社、塩釜神社で14日、子供の無病息災を願う「八坂さま」の五色のぼりを製作している。子供供、親を呼んで、初めて訪れたが、五色のぼりを親子連れも分りやすく、すいすい仕上げた。一八坂大神、など書いて奉納し、健康やかな成長を願う夏の伝統行事で、各神社が準備を進めている。深志神社では、おみ

深志社は数年前から、今も昔も変わらないのぼりを一枚00円。若い世代の親子に奉納でお願いし、中には奉納する際に取り付ける納する際に取り付ける。納する際に取り付ける。納する際に取り付ける。

(H23年7月12日号)

華やか舞台城下町彩る



松本 天神まつりにぎわう

参拝客でにぎわう境内に引き込まれる華やかな装飾が施された舞台

松本深志の深志神社、20日に始まった。社例大祭「天神まつり」高祭では、城下町だうな活気の町を所有する。舞台はおぼろげに目にも、境内に引き込まれ、大勢の人々がにぎわった。今年も大勢の人々がにぎわった。今年も大勢の人々がにぎわった。

目録会の舞台を除く16台が引き出された。各町会を練り歩いた後、和太鼓かねを奏する法被姿の子供たちが、華やかな装飾が施された舞台の入り口を、写真撮影をする。写真は、25日は午前10時から午後3時半まで、各町会が参拝客を引き入れた。写真は、25日は午前10時から午後3時半まで、各町会が参拝客を引き入れた。

活気あふれる目も、おぼろげに目にも、境内に引き込まれ、大勢の人々がにぎわった。今年も大勢の人々がにぎわった。今年も大勢の人々がにぎわった。

(H23年7月25日号)

深志神社 この一年間の出来事 ～市民タイムスの記事から～

この記事切抜は市民タイムス社の許可を得て掲載しています。 同社の御高配に御礼申し上げます。

(H23年1月31日号)



深志神社で必勝を祈願

深志神社で必勝を祈願。松本山雅FCの吉沢選手、監督やスタッフ、22選手が30日、松本市の深志神社で必勝を祈願した。

深志神社では、7月の12日に必勝祈願を行った。深志神社では、7月の12日に必勝祈願を行った。深志神社では、7月の12日に必勝祈願を行った。

深志神社では、7月の12日に必勝祈願を行った。深志神社では、7月の12日に必勝祈願を行った。深志神社では、7月の12日に必勝祈願を行った。

(H22年12月26日号)

絵馬に託す 受験生の願い

松本地方の神社

受験生の願いを託す。松本地方の神社では、受験生の願いを託す。松本地方の神社では、受験生の願いを託す。



受験の合格を願う絵馬が鈴なりに掲げられている深志神社

(H23年1月6日号)

一年の幸願う 各地で節分行事

(H23年2月4日号)



大段頭おぼろげの目に通える。松本深志の深志神社では、節分の行事が行われた。大段頭おぼろげの目に通える。松本深志の深志神社では、節分の行事が行われた。

節分の行事が行われた。大段頭おぼろげの目に通える。松本深志の深志神社では、節分の行事が行われた。大段頭おぼろげの目に通える。松本深志の深志神社では、節分の行事が行われた。

(H23年3月30日号)

(H23年1月6日号)

(H23年3月6日号)

(H22年12月15日号)

(H22年10月26日号)

(H22年7月12日号)

(H23年7月12日号)

(H23年7月25日号)

(H23年3月30日号)

(H23年1月6日号)

(H23年3月6日号)

安泰願い杉玉奉納



松尾神社に初めて杉玉が奉納された

(H22年10月26日号)



松本深志の深志神社でも作業が開始した

(H22年12月15日号)

(H22年10月26日号)

(H22年7月12日号)

(H23年7月12日号)

(H23年7月25日号)

(H23年3月30日号)

(H23年1月6日号)

(H23年3月6日号)